神戸への思い そして「はるかひまわり」を通しての市民活動応援について

☆ 神戸はこころのふるさと

私の母は、戦前神戸にあるタイプライターの専門学校に通っていました。

その後、鹿児島県鹿屋で父と出会い私が生まれました。

子どもの頃から母に『神戸はケーキとコーヒーの街なんだよ！』と聞かされてきました。私の中でも、「いつか神戸で美味しいケーキとコーヒーのお店を作りたい！」と、夢は膨らんでいきました。そして私は鹿屋市に小さなコーヒーハウスを作りました。

これがフェスティバル社のスタートです。

時を経て、私は念願だった神戸の大丸に私たちの作ったお菓子を並べることが出来ました。

しかし神戸への想いはますます深まっていきました。

☆神戸で美味しいお菓子を作りたい！

「神戸に工場を作れないか？」そんな時にあの阪神淡路大震災が起きました。

大好きな神戸の方々には何かお手伝いが出来ないかとスタッフと考え、「冷凍した焼き芋であれば暖めればすぐ食べられる！」ということで送り先をいろいろ探しましたが、「冷凍設備がないのでけっこうです」とのことでした。自分たちで出向き焼いてみなさんに食べていただくことも考えましたが力不足で実現することが出来ませんでした。— 残念の一言でした・・・。—

神戸空港開港を知った私たちは、以前からお付き合いのあった JALUX や神戸大丸の方々にも働きかけ、『神戸マリン菓』というスイーツを作り、空港や大丸で販売しました。神戸のみなさんにも大変喜んでいただけましたが、私の中では「神戸の名前の付いたお菓子ではなく神戸で作る美味しいお菓子」という想いがありましたので、「工場を神戸に作ろう！」と神戸の街を歩きました。

☆ はるかひまわりとの出会い

神戸の街を歩いていると神戸市役所南隣に建つ『慰霊と復興のモニュメント』

そして、『1・17 希望の灯り』と出会いました。JALUX の方にそのお話をすると、「神戸空港開港の時には『はるかひまわり』と言うひまわりの種を搭乗される方々にお渡ししたんですよ』とお話されました。震災で亡くなったはるかちゃんのご自宅跡にひまわりが咲き、そのひまわりを神戸の方々は、『はるかひまわり』と名づけ、命の大切さを全国に届けようと活動されている事を知りました。私たちも何かお手伝い出来ないかと考え始めました。

☆紅はるか誕生！

三年ほど前、私たちの前に新種の唐芋が届けられました。その名も『紅はるか』。

私の脳裏に「はるかちゃん」が浮かびました。

そこで、その唐芋を使ってスイーツを創作し、その売上から神戸の方々の活動をサポートすることをスタッフに提案したところ、「やりましょう！美味しいスイーツを作って見せます！」と、新製品の開発が始まりました。

そして試行錯誤の末、『神戸ラブリー紅はるか』のスイーツが誕生しました。

現在、4月13日販売に向け JALUX 関西空港支店と調整中ですが、関西空港国内出発ロビー店・大阪空港店、そして神戸空港店の各 BLUE SKY で一斉に「はるかスイーツ」が开花します。

その売上の一部を『1.17 希望の灯り』事務局へ市民活動応援基金として私たちはサポートしてまいります。